

(案)

フェンメゾジチアズ 農薬使用者安全評価書

2026年7月27日

農業資材審議会農薬分科会

農薬使用者安全評価部会

目 次

＜経緯＞	2
＜農薬使用者安全評価部会出席者名簿＞	2
I．評価対象農薬の概要	3
1. 有効成分の概要	3
2. 有効成分の物理的・化学的性状	4
3. 申請に係る情報	5
4. 作用機作	5
5. 適用病虫害雑草等の範囲及び使用方法	5
II．安全性に係る試験の概要	6
1. 経口吸収率	6
2. 毒性試験の結果概要	9
III．農薬使用者暴露許容量（AOEL）	10
IV．急性農薬使用者暴露許容量（AAOEL）	14
V．暴露量の推計	16
1. 経皮吸収試験	16
2. 圃場における農薬使用者暴露	20
3. 暴露量の推計	20
VI．リスク評価結果	20
評価資料	21

＜経緯＞

令和7年（2025年）5月12日	農業資材審議会への諮問（登録）
令和8年（2026年）7月27日	農業資材審議会農薬分科会農薬使用者安全 評価部会（第26回）

＜農薬使用者安全評価部会出席者名簿＞

（第26回）

（委員）	（臨時委員）	（専門委員）	（専門参考人）
櫻井 裕之	天野 昭子	相崎 健一	小坂 忠司
美谷島 克宏		アイツバマイ ゆふ	
		上島 通浩	
		藤堂 浩明	
		成田 伊都美	
		元村 淳子	

フェンメゾジチアズ

I. 評価対象農薬の概要

1. 有効成分の概要

1.1 申請者 BASF ジャパン株式会社

1.2 登録名 フェンメゾジチアズ
(3*R*)-3-(2-クロロ-1,3-チアゾール-5-イル)-8-メチル-7-オキソ-6-フェニル-2,3,7,8-テトラヒドロ[1,3]チアゾロ[3,2-*a*]ピリミジン-4-イル-5-オレート

1.3 一般名 fenmezoditiaz (ISO)

1.4 化学名

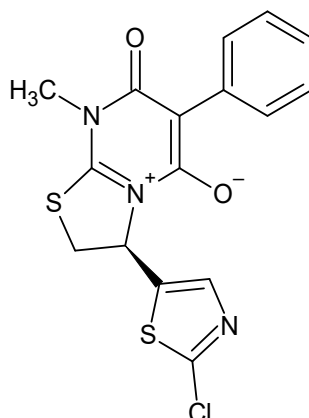
IUPAC 名 : (3*R*)-3-(2-chloro-1,3-thiazol-5-yl)-8-methyl-7-oxo-6-phenyl-2,3,7,8-tetrahydro[1,3]thiazolo[3,2-*a*]pyrimidin-4-ium-5-olate

CAS 名 : 5*H*-Thiazolo[3,2-*a*]pyrimidinium, 3-(2-chloro-5-thiazolyl)-2,3-dihydro-7-hydroxy-8-methyl-5-oxo-6-phenyl-, inner salt, (3*R*)-
(CAS No. 2413390-32-4)

1.5 分子式、構造式、分子量

分子式 $C_{16}H_{12}ClN_3O_2S_2$

構造式



分子量 377.88

2. 有効成分の物理的・化学的性状

試験項目		純度 (%)	試験方法	試験結果																															
蒸気圧		98.8	OECD 104 等温熱重量分析	4.5×10 ⁻⁶ Pa (20 °C) 6.9×10 ⁻⁶ Pa (25 °C)																															
融点		98.8	OECD 102 DSC/TG法	262.0 °C																															
沸点		98.8	OECD 103 DSC/TG法	269 °Cで分解																															
熱安定性		97.5	DSC法	269 °Cで分解																															
溶解度	水		98.8	OECD 105 フラスコ法	<25 mg/L (20 °C、蒸留水) 23 mg/L (20 °C、pH4) 24 mg/L (20 °C、pH7) <100 mg/L (20 °C、pH9)																														
	有機溶媒	ヘプタン	97.8	OECD 105 フラスコ法	<0.1 mg/L (20 °C)																														
		p-キシレン			0.07 g/L (20 °C)																														
		1,2-ジクロロエタン			8.26 g/L (20 °C)																														
		アセトン			2.99 g/L (20 °C)																														
		2-プロパノール			0.24 g/L (20 °C)																														
	酢酸エチル	0.58 g/L (20 °C)																																	
解離定数 (pKa)		98.8	OECD 112 滴定法	pKa=4.56 (20 °C)																															
1-オクタノール／水分配係数 (log P _{ow})		98.8	OECD 117 HPLC法	1.4 (pH 5.8, 7.0, 9.0)																															
加水分解性		98.8及び 95.6	OECD 111	安定 (25 °C、31日間、pH 4) 半減期11.62 日 (25 °C、pH 7) 半減期 3.5 時間 (25 °C、pH 9)																															
水中光分解性		98.8及び 95.6	OECD 316	半減期約1.66 日 (pH 4、25±1 °C、30 W/m ² 、290-440 nm)																															
水中光分解性		99.7	OECD 316	半減期約2.09 日 (pH 4、25±1 °C、30 W/m ² 、290-440 nm)																															
紫外可視吸収 (UV/VIS) スペクトル		98.8	<table><tr><th>極大吸収波長 (nm)</th><th>吸光度</th><th>モル吸光係数 (L mol⁻¹ cm⁻¹)</th></tr><tr><td colspan="3">中性</td></tr><tr><td>195</td><td>1.166</td><td>28358</td></tr><tr><td>209</td><td>0.9507</td><td>24144</td></tr><tr><td>320</td><td>0.2144</td><td>5445</td></tr><tr><td colspan="3">酸性 (pH 1.06)</td></tr><tr><td>209</td><td>0.9462</td><td>24030</td></tr><tr><td>320</td><td>0.2154</td><td>5470</td></tr><tr><td colspan="3">アルカリ性 (pH 11.9)</td></tr><tr><td>262</td><td>0.8417</td><td>21376</td></tr></table>			極大吸収波長 (nm)	吸光度	モル吸光係数 (L mol ⁻¹ cm ⁻¹)	中性			195	1.166	28358	209	0.9507	24144	320	0.2144	5445	酸性 (pH 1.06)			209	0.9462	24030	320	0.2154	5470	アルカリ性 (pH 11.9)			262	0.8417	21376
			極大吸収波長 (nm)	吸光度	モル吸光係数 (L mol ⁻¹ cm ⁻¹)																														
			中性																																
			195	1.166	28358																														
			209	0.9507	24144																														
			320	0.2144	5445																														
			酸性 (pH 1.06)																																
			209	0.9462	24030																														
			320	0.2154	5470																														
			アルカリ性 (pH 11.9)																																
262	0.8417	21376																																	

3. 申請に係る情報

新規有効成分フェンメゾジチアズを含む製剤であるバキシオ箱粒剤の登録申請を令和 6 年（2024 年）3 月 1 日に受けた。

フェンメゾジチアズは、令和 8 年（2026 年）7 月現在、海外では登録されていない。

4. 作用機作

フェンメゾジチアズはニコチン作動性アセチルコリン受容体に結合し、受容体のチャネルを閉じた状態に保つ作用を有する。このことにより、神経細胞内へのイオン流入が抑制され神経伝達が遮断され、抑制性麻痺が生じ、殺虫効果が現れる。

(IRAC 分類：4E*)

※参照：<https://irac-online.org>

5. 適用病虫害雑草等の範囲及び使用方法

評価対象となるフェンメゾジチアズを含有する農薬 6 製剤について、適用病虫害雑草等の範囲及び使用方法を別添 1 に示す。

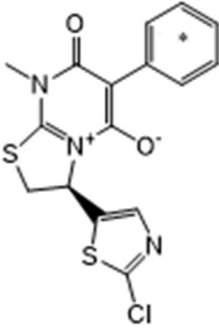
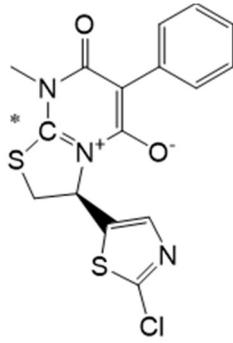
Ⅱ．安全性に係る試験の概要

フェンメゾジチアズは、令和 8 年（2026 年）6 月 10 日、内閣府食品安全委員会において、食品健康影響評価（資料 1）がなされている。

1. 経口吸収率

フェンメゾジチアズのフェニル基の炭素を均一に ^{14}C で標識したもの（以下「[phe- ^{14}C]フェンメゾジチアズ」という。）及びジヒドロチアゾール環 2 位の炭素を ^{14}C で標識したもの（以下「[itu- ^{14}C]フェンメゾジチアズ」という。）（表 1）を用いた動物代謝試験による動物体内への吸収率（経口吸収率）の概要をまとめた。

表 1 標識化合物

略称	[phe- ^{14}C]フェンメゾジチアズ	[itu- ^{14}C]フェンメゾジチアズ
構造式		
標識位置	フェニル基の炭素を均一に標識	ジヒドロチアゾール環の2位の炭素を標識

① 尿及び糞中排泄（資料 2、GLP）

Wistar Hannover ラット（一群雌雄各 3 又は 4 匹）に [phe- ^{14}C]フェンメゾジチアズ又は [itu- ^{14}C]フェンメゾジチアズを 15 mg/kg 体重（以下「低用量」という。）若しくは 60 mg/kg 体重（以下「高用量」という。）で単回経口投与して、尿及び糞中排泄試験が実施された。

投与後 168 時間の尿及び糞中排泄率は表 2 に示されている。

投与放射能は、標識体及び性別にかかわらず、低用量投与群では主に尿中に、高用量投与群では主に糞中に排泄された。

本試験より得られた尿、ケージ洗浄液、組織及びカーカスの合計より、単回投与後 168 時間の吸収率は、低用量群で 47.6～57.2%、高用量群で 29.9～45.5%であると算出された。

表 2 投与後 168 時間の尿及び糞中排泄率 (%TAR)

標識体	[phe- ¹⁴ C]フェンメゾジチアズ				[itu- ¹⁴ C]フェンメゾジチアズ			
投与量 mg/kg 体重	15		60		15		60	
性別	雄 ^a	雌 ^a	雄 ^a	雌 ^b	雄 ^a	雌 ^a	雄 ^b	雌 ^b
尿	46.5	54.9	34.6	41.9	51.5	46.4	28.3	27.9
糞	42.7	34.5	64.3	47.3	46.1	38.5	61.2	61.2
ケージ洗浄液	0.77	1.94	1.14	2.59	0.72	1.12	0.72	0.94
組織 ^c	0.34	0.33	0.60	0.99	0.41	0.37	0.83	1.08
消化管	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
消化管内容物	0.01	0.03	0.03	0.06	0.01	0.01	0.04	0.04
呼気 ^d	0.00				0.19			
経口吸収率 ^e	47.6	57.2	36.3	45.5	52.8	47.9	29.9	29.9
総回収率	90.3	91.7	101	92.8	98.9	86.4	91.1	91.2

/: データなし

a: 各数値は 4 例の平均値

b: 各数値は 3 例の平均値

c: カークスを含む

d: 各数値は 2 例の平均値

e: 尿、ケージ洗浄液、組織、消化管及び呼気の合計

② 胆汁中排泄 (資料 2、GLP)

胆汁カニニューレを挿入した Wistar Hannover ラット (一群雌雄各 4~6 匹) に [phe-¹⁴C]フェンメゾジチアズ又は [itu-¹⁴C]フェンメゾジチアズを低用量又は高用量で単回経口投与して、胆汁中排泄試験が実施された。

投与後 72 時間の胆汁、尿及び糞中排泄率は表 3 に示されている。

胆汁中排泄率は、低用量投与群で 3.40%TAR~7.55%TAR、高用量投与群で 1.98%TAR~5.73%TAR であった。

本試験より得られた胆汁、尿及びケージ洗浄液の合計より、単回投与後 72 時間の吸収率は、低用量群で 48.0~68.2%、高用量群で 32.4~40.7%であると算出された。

表 3 投与後 72 時間の胆汁、尿及び糞中排泄率 (%TAR)

標識体	[phe- ¹⁴ C]フェンメゾジチアズ				[itu- ¹⁴ C]フェンメゾジチアズ			
投与量 mg/kg 体重	15		60		15		60	
性別	雄 ^a	雌 ^b	雄 ^c	雌 ^b	雄 ^a	雌 ^c	雄 ^c	雌 ^a
尿	58.5	55.7	28.5	26.9	41.2	57.6	28.3	33.1
糞	32.7	37.4	58.4	9.39	34.8	32.6	60.6	46.4
胆汁	7.55	4.01	5.73	4.62	3.40	3.88	2.85	1.98
カーカス	0.45	0.20	0.48	2.42	0.25	0.20	0.26	0.41
ケージ洗浄液	1.66	2.13	1.36	3.97	2.55	1.98	1.01	3.00

消化管	0.04	0.00	0.02	2.83	0.60	0.04	0.02	0.16
消化管内容物	0.40	0.03	0.14	47.7	1.00	0.74	0.15	0.46
経口吸収率 ^d	68.2	62.0	36.1	40.7	48.0	63.7	32.4	38.7
総回収率	101	99.5	94.6	97.8	83.8	97.0	93.2	85.5

a : 各数値は 4 例の平均値

b : 各数値は 6 例の平均値

c : 各数値は 5 例の平均値

d : 尿、胆汁、カーカス、消化管及びケージ洗浄液の合計

2. 毒性試験の結果概要

各種毒性試験（資料 3～47）の結果は、資料 1（食品安全委員会農薬評価書）の II.安全性に係る試験の概要を参照した。

フェンメゾジチアズの急性経口毒性試験の LD_{50} はラットで 500～2,000 mg/kg 体重、急性経皮毒性の LD_{50} はラットで >2,000 mg/kg 体重、急性吸入毒性の LC_{50} は >2.42 mg/L、眼刺激性、皮膚刺激性及び皮膚感作性は認められなかった。

フェンメゾジチアズ投与による影響は、主に体重（増加抑制：ラット及びマウス）、消化管（糞うっ滞等：ラット及びマウス）並びに外分泌腺（腺房細胞萎縮等：ラット及びマウス）に認められた。発がん性、発達神経毒性、繁殖能に対する影響、催奇形性及び遺伝毒性は認められなかった。

食品安全委員会は、各試験で得られた無毒性量及び最小毒性量のうち最小値は、ウサギを用いた発生毒性試験の無毒性量 4 mg/kg 体重/日であったことから、これを根拠として安全係数 100 で除した 0.04 mg/kg 体重/日を許容一日摂取量（ADI）と設定した。

また、フェンメゾジチアズの単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響に対する無毒性量及び最小毒性量のうち最小値は、ラットを用いた発生毒性試験の無毒性量 10 mg/kg 体重/日であったことから、これを根拠として、安全係数 100 で除した 0.1 mg/kg 体重を急性参照用量（ARfD）と設定した。

Ⅲ. 農薬使用者暴露許容量 (AOEL)

急性毒性、28 日間反復経皮投与毒性及び 28 日間反復吸入毒性試験の結果において、経皮又は吸入経路に特異的な毒性は見られなかったこと及び農薬としての使用方法から、フェンメゾジチアズの農薬使用者暴露許容量 (AOEL) の設定に当たっては、経皮又は吸入経路特異的な毒性を考慮する必要はないと判断した。よって経口投与による短期毒性試験、生殖・発生毒性試験及び神経毒性試験の結果に基づき AOEL を設定する (表 6)。

ラットを用いた 90 日間反復経口投与毒性試験において、雌の 22.4 mg/kg 体重/日投与群で認められた膵臓の腺房細胞萎縮等により、雌の無毒性量が設定できなかった (22.4 mg/kg 体重/日未満) が、より低用量で長期間実施されたラットを用いた 2 年間反復経口投与毒性/発がん性併合試験では、雌の無毒性量として 9.2 mg/kg 体重/日が得られている。また、投与開始時期及び投与期間が 90 日間反復経口投与毒性試験と同等と考えられるラットを用いた 90 日間反復経口投与神経毒性試験において、雌の無毒性量 8.9 mg/kg 体重/日が得られている。このため、ラットの短期毒性試験における無毒性量は、雄の 7.9 mg/kg 体重/日であると考えられた。

各試験で得られたフェンメゾジチアズの無毒性量のうち最小値は、ウサギを用いた発生毒性試験の母動物における摂餌量減少に基づく無毒性量 4 mg/kg 体重/日であり、これを AOEL の設定根拠とすることが妥当と判断した。

また、最小の無毒性量に近い投与量におけるラットを用いた動物代謝試験の経口吸収率は、胆汁中排泄試験の 15 mg/kg 体重投与群の 48.0～68.2%であるが (表 5)、[itu-¹⁴C]フェンメゾジチアズ 15 mg/kg 体重投与群の雄の総回収率が 83.8%と低いため、この結果を除外した。その他の尿・糞中排泄試験の結果を含めて供試動物の性別による顕著な違いはないことから、AOEL 設定に当たっては、胆汁中排泄試験の雌雄の経口吸収率の算術平均である 64.2%を用いて補正することが妥当であると判断した。

表 5 フェンメゾジチアズを単回経口投与した場合の経口吸収率 (%)

標識体	[phe- ¹⁴ C]フェンメゾジチアズ		[itu- ¹⁴ C]フェンメゾジチアズ	
投与量	15 mg/kg体重		15 mg/kg体重	
性別	雄 ^a	雌 ^b	雄 ^a	雌 ^c
経口吸収率 (%)	68.2	62.0	48.0	63.7
総回収率 (%)	101	99.5	83.8	97.0

表の値は投与後 48 時間の平均値

a : 各数値は 4 例の平均値

b : 各数値は 6 例の平均値

c : 各数値は 5 例の平均値

以上の結果から、ウサギを用いた発生毒性試験の無毒性量 4 mg/kg 体重/日を経口吸収率 64.2%により補正し、安全係数 100 で除した 0.026 mg/kg 体重/日を農薬使用者暴露許容量（AOEL）と設定した。

AOEL	0.026 mg/kg 体重/日
（AOEL 設定根拠試験）	発生毒性試験
（動物種）	ウサギ
（期間）	妊娠 6～28 日
（投与方法）	強制経口
（無毒性量）	4 mg/kg 体重/日
（毒性所見）	母動物：糞の大型化及び摂餌量減少
（安全係数）	100
（経口吸収率）	64.2%（ラット）

表 6 AOEL の設定に関連する毒性影響等

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	NOAEL (mg/kg 体重/ 日)	LOAEL (mg/kg 体重/ 日)	AOEL 設定に関連する エンドポイント*
ラット	90 日間 反復経口 投与毒性 GLP (資料 14、 15)	雄：0、120、300、1,200 ppm 雌：0、300、1,200、3,000、 9,000/4,500 ¹⁾ ppm 雄：0、7.9、20.2、79.8 雌：0、22.4、88.7、217、 508/337	雄：7.9 雌：－	雄：20.2 雌：22.4	雄雌：膵臓の腺房細胞萎縮等
	2 年間 反復経口投 与毒性/発 がん性併合 GLP (資料 29)	0、50、150、450、900 ppm (52 週間投与) 雄：0、2.4、7.4、21.5、43.8 雌：0、3.0、15.0、27.6、56.6 (104 週間投与) 雄：0、2.1、6.3、19.2、40.2 雌：0、2.8、9.2、27.2、51.7	雄：6.3 雌：9.2	雄：19.2 雌：27.2	雌雄：体重増加抑制及び顎下腺 腺房細胞のび慢萎縮等 発がん性は認められなかった。
	90 日間 反復経口投 与神経毒性 GLP (資料 44)	0、30、120、600 ppm 雄：0、2.0、7.7、39.0 雌：0、2.4、8.9、44.4	雄：7.7 雌：8.9	雄：39.0 雌：44.4-	雄：体重増加抑制等 雌：膵臓房細胞萎縮 反復経口投与神経毒性は認めら れなかった。
	発達神経毒 性 GLP (資料 46)	0、20、60、200 ppm 妊娠期間： 0、1.7、5.1、16.3 哺育期間： 0、2.1、6.0、20.4	母動物、児動 物：5.1	母動物、児動 物：16.3	母動物、児動物：体重増加抑制 等 発達神経毒性は認められなかつ た。
	2 世代繁殖 毒性 GLP (資料 39)	0、60、200、600 ppm P 雄：0、4.6、15.8、45.7 P 雌：0、4.9、15.8、48.5 F ₁ 雄：0、5.1、17.2、53.6 F ₁ 雌：0、5.3、17.8、55.6	親動物 P 雄：4.6 P 雌：4.9 F ₁ 雄：5.1 F ₁ 雌：5.3 児動物 P 雄：15.8 P 雌：15.8 F ₁ 雄：17.2 F ₁ 雌：17.8	親動物 P 雄：15.8 P 雌：15.8 F ₁ 雄：17.2 F ₁ 雌：17.8 児動物 P 雄：45.7 P 雌：48.5 F ₁ 雄：53.6 F ₁ 雌：55.6	親動物 雌雄：腺胃びらん/潰瘍等 児動物 雌雄：体重増加抑制等 繁殖能に対する影響は認められ なかった。
	発生毒性 GLP (資料 41)	0、3、10、30	母動物、胎児： 10	母動物、胎児： 30	母動物：体重増加抑制及び摂餌量 減少 胎児：胸骨分節の骨化遅延（形態 異常、片側骨化及び二分 骨化） 催奇形性は認められなかった。
マウス	90 日間 反復経口投 与毒性 GLP (資料 17)	0、120、500、2,200 ppm 雄：0、22.3、104、473 雌：0、32.3、129、591	雄：22.3 雌：32.3	雄：104 雌：129	雄：糞の大型化、体重増加抑制 等 雌：糞の大型化、眼窩外涙腺の び慢性萎縮等

	18 か月間 発がん性 GLP (資料 30、 31)	雄：0、30、100、350 ppm 雌：0、30、100、600、1,800 ppm 雄：0、5.0、16.6、106、 雌：0、6.0、19.9、73.1、413	雄：16.6 雌：19.9	雄：106 雌：73.1	雌雄：体重増加抑制等 発がん性は認められなかった。
ウサギ	発生毒性 GLP (資料 42)	0、4、12、24	母動物：4 胎 児：12	母動物：12 胎 児：24-	母動物：糞の大型化及び摂餌量 減少 胎児：吸収胚数及び着床後胚死 亡率増加等 催奇形性は認められなかった。
イヌ	90 日間 反復経口 投与毒性 GLP (資料 19)	0、50、200、800	雄：800 雌：50	雄：－ 雌：200	雄：毒性所見なし 雌：Alb 及びカルシウム減少

*：最小毒性量で認められた主な毒性所見を示す。

－：無毒性量又は最小毒性量は設定できなかった。

¹⁾：9,000 ppm 投与群において、投与 3～7 日に 4 例が死亡又は切迫と殺されたことから、投与 7 日から
投与量 4,500 ppm に変更された。

IV. 急性農薬使用者暴露許容量 (AAOEL)

フェンメゾジチアズの単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響(表7) に対する無毒性量のうち最小値は、ラットを用いた発生毒性試験の無毒性量 10 mg/kg 体重/日であり、得られた毒性所見を検討した結果、これを根拠として、AOEL と同様に経口吸収率 64.2%による補正を行い、安全係数 100 で除した 0.064 mg/kg 体重を急性農薬使用者暴露許容量 (AAOEL) と設定した。

AAOEL	0.064 mg/kg 体重
(AAOEL 設定根拠試験)	発生毒性試験
(動物種)	ラット
(期間)	妊娠 6～19 日
(投与方法)	強制経口
(無毒性量)	10 mg/kg 体重/日
(毒性所見)	母動物：体重減少/増加抑制及び摂餌量減少
(安全係数)	100
(経口吸収率)	64.2% (ラット)

表 7 AAOEL の設定に関連する毒性影響等

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重又は mg/kg 体重/日)	無毒性量及び AAOEL に関連するエンドポイント* (mg/kg 体重又は mg/kg 体重/日)
ラット	急性経口毒性① GLP (資料 4)	雌：500、2,000	雌：－ 雌：全身状態不良、立毛等
	急性経口毒性② GLP (資料 5)	雌：500、2,000	雌：－ 雌：全身状態不良、立毛
	急性神経毒性 GLP (資料 43)	雌雄：30、100、300	雌雄：30 雌雄：軽度眼瞼閉鎖及び半眼（投与当日）等
	発生毒性 GLP (資料 41)	3、10、30	母動物：10 母動物：体重減少（妊娠 6～8 日以降）/増加抑制及び摂餌量減少（妊娠 6～8 日以降）
ウサギ	発生毒性 GLP (資料 42)	4、12、24	母動物及び胎児：12 母動物：体重増加抑制及び摂餌量減少（妊娠 6 日以降） 胎児：吸収胚数及び着床後胚死亡率増加

－：無毒性量は設定されなかった。

*：最小毒性量又は最小作用量で認められた主な毒性所見を示す。

V. 暴露量の推計

1. 経皮吸収試験

(1) 経皮吸収率の推定

(ア) ^{14}C 標識フェンメゾジチアズを用いたヒト *in vitro* 経皮吸収試験（資料48、GLP）

試験方法：

調製方法：非標識フェンメゾジチアズ、 ^{14}C フェンメゾジチアズ及びフェンメゾジチアズ水和剤を用いて比放射活性の異なる2つの試料を調製した（いずれも200 g ai/L）。そのうち、比放射活性の低い試料を製剤として、そのまま使用した。製剤を水で希釈し、0.471 g ai/Lになるように調製した（425倍希釈液）。比放射活性の高い試料を水で希釈し、0.211 g ai/Lになるように調製した（950倍希釈液）。

採取試料：試験容器（レセプターチャンバー）にレセプター液を満たし、その上部にヒトの皮膚試料を接触させて、上記の調製した製剤、425倍希釈液及び950倍希釈液を皮膚試料の表面に均一に適用した。処理8時間後及び24時間後に皮膚表面を洗浄剤で洗い、綿棒で拭き取り、表面へ残存する放射性物質を回収した。処理24時間後に皮膚試料を採取し、テープにより角質層中の放射性物質を回収し（テープストリップ）、その濃度及び回収率を測定した。また、レセプター液を経時的に採取し、皮膚を透過した放射性物質の濃度を測定した。

試験例数：製剤及び希釈液のいずれも、皮膚の健全性の基準（経皮電気抵抗性（TEER）>1.0 k Ω ）を満たした8例で実施された。

試験結果：製剤、425倍希釈液及び950倍希釈液を用いた経皮吸収試験の結果の概要を表8に示す。

表8：製剤、425倍希釈液及び950倍希釈液の経皮吸収（ヒト）^a

	製剤		希釈液1 (1:425)		希釈液2 (1:950)	
皮膚試料数	8		8		8	
設定濃度 [mg/mL]	200		0.471		0.211	
設定投与量 [$\mu\text{g}/\text{cm}^2$]	2,000		4.71		2.11	
平均実投与量 [$\mu\text{g}/\text{cm}^2$]	2,000		4.68		2.14	
回収率 [%]	平均	SD	平均	SD	平均	SD
<u>吸収率から除外可能な量</u>						
8,24時間後の皮膚試料洗浄液	98.38	1.66	95.47	1.39	94.22	1.40
ドナーチャンバー洗浄液	0.04	0.04	0.11	0.05	N/A	N/A
<u>皮膚試料に関連する量</u>						
テープストリップ1-2	0.00	0.00	0.20	0.20	0.27	0.29
テープストリップ3-x	0.00	0.00	0.55	0.61	0.44	0.56
皮膚試料中残渣量	0.00	0.00	0.41	0.53	0.29	0.26
<u>吸収量</u>						
レセプター液	0.01	0.00	0.03	0.02	0.04	0.04
レセプターチャンバー洗浄液	0.00	0.00	N/A	N/A	N/A	N/A
総回収率	98.43	1.66	96.67	1.13	95.16	0.91
試料採取期間の半分の期間における 透過率 ($t_{0.5}$) の信頼下限値 (LLC of $t_{0.5}$)	97.95	0.88	100.00	0.00	98.57	1.01
吸収は完全か否か	はい		はい		はい	
LLC of $t_{0.5} \leq 75\%$ のときの吸収量 ¹⁾	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
LLC of $t_{0.5} > 75\%$ のときの吸収量	0.01	0.00	0.39	0.53	0.22	0.29
補正吸収量	0.01	0.00	0.39	0.53	0.22	0.29
最終吸収量	0.010		0.836		0.467	
最終吸収量 (丸め値)	0.01		0.84		0.47	

^a : BfR の経皮吸収率計算シートで解析

N/A : 該当なし

ヒト *in vitro* 経皮吸収率の推定結果

¹⁴C 標識フェンメゾジチアズを用いたヒト *in vitro* 経皮吸収試験結果を農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき評価した結果、以下のように提出されたフェンメゾジチアズ水和剤の経皮吸収率を推定した。

① 角質層中残渣量（テープストリップ）

製剤、425 倍希釈液及び 950 倍希釈液のいずれについても試料採取期間は 24 時間であり、被験物質処理後 12 時間のレセプター液への透過率の信頼下限値 (LLC of $t_{0.5}$) は 75%以上であったことから、全てのテープストリップ由来の被験物質を経皮吸収量から除外した。

② 試験の回収率による補正

製剤、425 倍希釈液及び 950 倍希釈液のいずれも平均回収率が 95%以上であったことから、回収率による各吸収率の補正は行わなかった。

③ サンプル間の変動

製剤、425 倍希釈液及び 950 倍希釈液の皮膚試料数はいずれも 8 であったことから、係数 0.84 を標準偏差に乘じ平均値に加算して経皮吸収率を算出した。その結果、製剤は 0.010%、425 倍希釈液は 0.836%、950 倍希釈液は 0.467%であった。

以上から、本試験に用いたフェンメゾジチアズ 18.2%水和剤のヒト *in vitro* 経皮吸収率は 0.01%、425 倍希釈液のヒト *in vitro* 経皮吸収率は 0.84%、950 倍希釈液のヒト *in vitro* 経皮吸収率は 0.47%と推定した。

また、試験に用いた製剤は、成分に有機溶媒を含有しないため、液体製剤（水ベース）と判断した。

(イ) 暴露評価に用いる経皮吸収率

① バレシオフロアブル

申請されたバレシオフロアブル（フェンメゾジチアズ 18.2%水和剤）は経皮吸収試験に用いた製剤と組成が同じであることから、フェンメゾジチアズのリスク評価に用いる経皮吸収率は農薬使用者への影響評価ガイドンスに基づき、表 9 のとおり適用する。

表 9：暴露評価に用いる経皮吸収率

申請された使用方法における希釈倍数	暴露評価に用いる経皮吸収率 (%)	算出根拠
製剤 (1倍)	0.01	経皮吸収試験の製剤の経皮吸収率を利用。
32倍	0.84	経皮吸収試験の425倍希釈液の経皮吸収率を利用。
4,000倍	0.84	経皮吸収試験の425倍希釈液の経皮吸収率を利用。 希釈液4,000倍について、経皮吸収試験の950希釈液の経皮吸収率が425倍希釈液の経皮吸収率よりも低いことから、経皮吸収率2点を用いた線形外挿法によって算出された値ではなく、経皮吸収率の最大値 (0.84%) を利用することが適当であると判断した。

② デプリオフロアブル

申請されたデプリオフロアブル（フェンメゾジチアズ 18.2%水和剤）は経皮吸収試験に用いた製剤と組成が同じであることから、フェンメゾジチアズのリスク評価に用いる経皮吸収率は農薬使用者への影響評価ガイドンスに基づき、表 10 のとおり適用する。

表 10：暴露評価に用いる経皮吸収率

本剤の使用方法における希釈倍数	暴露評価に用いる経皮吸収率 (%)	算出根拠
製剤 (1倍)	0.01	経皮吸収試験の製剤の経皮吸収率を利用。
2,000倍	0.84	経皮吸収試験の425倍希釈液の経皮吸収率を利用。 希釈液2,000倍について、経皮吸収試験の950希釈液の経皮吸収率が425倍希釈液の経皮吸収率よりも低いことから、経皮吸収率2点を用いた線形外挿法によって算出された値ではなく、経皮吸収率の最大値 (0.84%) を利用することが適当であると判断した。

③ デプリオターフフロアブル

申請されたデプリオターフフロアブル（フェンメゾジチアズ 18.2%水和剤）は経皮吸収試験に用いた製剤と組成が同じであることから、フェンメゾジチアズのリスク評価に用いる経皮吸収率は農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、表 11 のとおり適用する。

表 11：暴露評価に用いる経皮吸収率

本剤の使用方法における希釈倍数	暴露評価に用いる経皮吸収率 (%)	算出根拠
製剤 (1倍)	0.01	経皮吸収試験の製剤の経皮吸収率を利用。
1,000倍	0.84	経皮吸収試験の425倍希釈液の経皮吸収率を利用。 希釈液1,000倍について、経皮吸収試験の950希釈液の経皮吸収率が425倍希釈液の経皮吸収率よりも低いことから、経皮吸収率2点を用いた線形外挿法によって算出された値ではなく、経皮吸収率の最大値 (0.84%) を利用することが適当であると判断した。

④ その他の製剤

①から③以外の製剤のリスク評価に用いる経皮吸収率は、農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、剤型によるデフォルト値を適用する。

2. 圃場における農薬使用者暴露

フェンメゾジチアズを含有する農薬製剤で実施した圃場における農薬使用者暴露試験結果は提出されていない。

3. 暴露量の推計

申請された製剤について、I. の5. 適用病虫害雑草等の範囲及び使用方法（別添1）に従って使用した場合の暴露量を予測式により推計した。推計に当たっては農薬使用者への影響評価ガイダンスに準拠した。

推計に用いたパラメータ等及び暴露量の推計結果を別添2に示す。

VI. リスク評価結果

I. の5. 適用病虫害雑草等の範囲及び使用方法（別添1）に従って使用した場合の暴露量は、AOEL 及び AAOEL を下回っていた（別添2）。

評価資料

資料 番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無
1	2024	農薬評価書 フェンメゾジチアズ（初版） 食品安全委員会、公表 URL : https://www.fsc.go.jp/fsciis/evaluationDocument/show/kya20251022192
2	2022	¹⁴ C-BAS 560 I: Study on kinetics in Wistar rats after oral and intravenous administration GLP、未公表
3	2022	AMENDMENT NO. 1 TO THE REPORT: ¹⁴ C-BAS 560 I: Study on kinetics in Wistar rats after oral and intravenous administration GLP、未公表
4	2019	BAS 560 I - Acute oral toxicity study in rats GLP、未公表
5	2022	BAS 560 I - Acute oral toxicity study in rats GLP、未公表
6	2019	BAS 560 I - Acute dermal toxicity study in rats GLP、未公表
7	2019	BAS 560 I - Acute inhalation toxicity study in Wistar rats, 4-hour dust exposure (nose only) GLP、未公表
8	2022	BAS 560 I - BUEHLER test in guinea pigs GLP、未公表
9	2019	BAS 560 I - Local Lymph Node Assay (LLNA) GLP、未公表
10	2019	BAS 560 I - Acute dermal irritation / corrosion in rabbits GLP、未公表
11	2019	BAS 560 I - Acute eye irritation in rabbits GLP、未公表
12	2021	Amendment No.1 to the Report GLP、未公表
13	2019	BAS 560 I - In Vitro Eye Irritation Test (EIT) in Reconstructed Human Cornea 非 GLP、未公表
14	2021	BAS 560 I - Repeated-dose 90-day oral toxicity study in Wistar rats including a recovery period of at least 28 days - Administration via the diet GLP、未公表
15	2023	FULLY AMENDED REPORT NO. 1 TO THE REPORT GLP、未公表
16	2019	BAS 560 I - Repeated-dose 28-day toxicity study in Wistar rats Administration via the diet GLP、未公表
17	2021	BAS 560 I - Repeated dose 90-day oral toxicity study in C57BL/6J Rj mice - Administration via the diet GLP、未公表
18	2021	BAS 560 I - Repeated dose 28-day toxicity study in C57BL/6J Rj mice Administration via the diet GLP、未公表

資料 番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無
19	2022	BAS 560 I - Repeated-dose 90-day oral toxicity study in Beagle dogs - Oral administration (capsule) GLP、未公表
20	2021	Repeated-dose 28-day oral toxicity study in Beagle dogs Oral administration (capsule) GLP、未公表
21	2019	Summary of Results [not QAU-checked] BAS 560 1 Range-finding study in Beagle dogs Oral administration (capsule) 非 GLP、未公表
22	2023	BAS 560 I - Repeated dose 28-day inhalation toxicity study in Wistar rats - dust exposure GLP、未公表
23	2021	BAS 560 I - Repeated dose 28-day dermal toxicity study in Wistar rats GLP、未公表
24	2018	SALMONELLA TYPHIMURIUM / ESCHERICHIA COLI REVERSE MUTATION ASSAY GLP、未公表
25	2022	BAS 560 I - SALMONELLA TYPHIMURIUM / ESCHERICHIA COLI REVERSE MUTATION ASSAY GLP、未公表
26	2020	BAS 560 I - MICRONUCLEUS ASSAY USING PRIMARY HUMAN LYMPHOCYTES GLP、未公表
27	2020	BAS 560 I - MICRONUCLEUS TEST IN BONE MARROW CELLS OF THE MOUSE GLP、未公表
28	2019	BAS 560 I - IN VITRO GENE MUTATION TEST IN CHO CELLS (HPRT LOCUS ASSAY) GLP、未公表
29	2022	BAS 560 I - Combined Chronic Toxicity/ Carcinogenicity Study in Wistar Rats Administration via the Diet up to 24 Months GLP、未公表
30	2022	BAS 560 I - Carcinogenicity Study in C57BL/6J Rj mice Administration via the Diet up to 18 Months GLP、未公表
31	2024	AMENDMENT NO. 1 TO THE REPORT: BAS 560 I - Carcinogenicity Study in C57BL/6J Rj mice Administration via the Diet up to 18 Months GLP、未公表
32	2023	Photodocumentation 非 GLP、未公表
33	2023	Rational for Self-Classification for Carcinogenicity of Fenmezoditiaz (BAS 560 I) 非 GLP、公表
34	2023	Historical control data (HCD) Additional HCD for neoplastic histopathological incidences for 18-month carcinogenicity studies with C57BL/6 Rj mice 非 GLP、公表
35	2016	Testing for potential androgenic and antiandrogenic activity using the YAS-Assay [AR] (Yeast Androgen Screening) GLP、未公表
36	2016	Testing for potential estrogenic and antiestrogenic activity using the YES-Assay [ERα] (Yeast Estrogen Screening)

資料 番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無
		GLP、未公表
37	2019	Ion Channel hnAChRα3/β4 Agonist, Antagonist, & PAM IonFlux Assays GLP、未公表
38	2019	In Vitro Pharmacology - Study of 16/0272-9 GLP、未公表
39	2022	BAS 560 I - Two-Generation Reproduction Toxicity Study in Wistar Rats Administration via the Diet GLP、未公表
40	2023	Historical control data (HCD) Topics: Additional HCD for Anogenital Distance / Anogenital Index in 2-generation reproductive toxicity studies with Wistar rats (supplier: Charles River) conducted at BASF SE during 2011 – 2019 under GLP conditions 非 GLP、非公表
41	2020	BAS 560 I - Prenatal Developmental Toxicity Study in Wistar Rats - Oral Administration (Gavage) GLP、未公表
42	2022	BAS 560 I - Prenatal Developmental Toxicity Study in New Zealand White Rabbits - Oral Administration (Gavage) GLP、未公表
43	2021	BAS 560 I - Acute oral neurotoxicity study in Wistar rats - Administration by gavage GLP、未公表
44	2022	BAS 560 I - Repeated Dose 90-Day Combined Oral Toxicity-/Neurotoxicity Study in Wistar Rats - Administration via the diet GLP、未公表
45	2022	AMENDMENT NO.1 TO THE REPORT GLP、未公表
46	2022	BAS 560 I - Developmental Neurotoxicity study in Wistar rats Administration to the dams and pups via the diet GLP、未公表
47	2020	ANALYTICAL REPORT Concentration analysis of BAS 560 I and Reg.No. 6127225 GLP、未公表
48	2021	14C-BAS 560 I in BAS 560 00 I Study of penetration through human skin in vitro GLP、未公表
49	2024	フェンメゾジチアズの試験成績の概要及び考察 未公表

別添 1：適用病害虫雑草等の範囲及び使用方法（フェンメゾジチアズ）

目 次

1. バキシオ箱粒剤 （フェンメゾジチアズ 2.0 %粒剤）	2
2. バレシオフロアブル （フェンメゾジチアズ 18.2 %水和剤）	2
3. デプリオフロアブル （フェンメゾジチアズ 18.2 %水和剤）	2
4. デプリオターフフロアブル （フェンメゾジチアズ 18.2 %水和剤）	2
5. アルファエース箱粒剤 （クロラントラニリプロール 0.75 %・フェンメゾジチアズ 1.0 %粒剤）	3
6. レシードアルファ箱粒剤 （クロラントラニリプロール 0.75 %・フェンメゾジチアズ 1.0 %・ジクロベンチアゾクス 2.0 %粒 剤）	3

1. バキシオ箱粒剤

(フェンメゾジチアズ 2.0 %粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	フェンメゾジチアズ を含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	ウカ類 ツマグロヨコバイ イネミズウムシ イネトヨイムシ ニカメイチュウ イネツトムシ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土 壌約 5 L)1 箱当り 50 g 高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	播種前	1 回	育苗箱の床 土または覆 土に均一に 混和する。	3 回以内 (育苗箱への処 理は 1 回以内、 本田での散布 及び 無人航空機散布 は合計 2 回以 内)
			播種時 覆土前 ～ 移植当日		育苗箱の上 から均一に 散布する。	

2. バレシオフフロアブル

(フェンメゾジチアズ 18.2 %水和剤)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	フェンメゾジチアズ を含む農薬の 総使用回数
稲	ウカ類 ツマグロヨコバイ	4000 倍	60~150 L/10 a	収穫 7 日前 まで	2 回以内	散布	3 回以内 (育苗箱への処 理は 1 回以内、 本田での散布 及び 無人航空機散布 は合計 2 回以 内)
		32 倍	0.8 L/10 a			無人航空機によ る散布	

3. デプリオフフロアブル

(フェンメゾジチアズ 18.2 %水和剤)

作物名	適用 害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	フェンメゾジチアズ を含む農薬の 総使用回数
きく	アザミヤ類 アブラムシ類	2000 倍	100~300 L/10 a	発生初期	3 回以内	散布	3 回以内

4. デプリオターフフロアブル

(フェンメゾジチアズ 18.2 %水和剤)

作物名	適用 害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	フェンメゾジチアズ を含む農薬の 総使用回数
芝	コガネムシ類 シバオサザムシ	1000 ～ 2000 倍	500 mL/m ²	発生初期	3 回以内	散布	3 回以内

5. アルファエース箱粒剤

(クロラントラニプロール 0.75 %・フェンメゾジチアズ 1.0 %粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	クロラントラニ プロールを含む 農薬の総使 用回数	フェンメゾジチアズを 含む農薬の総使 用回数
稲 (箱育苗)	ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネミズシロムシ イネトヨイムシ ニカメイチュウ イネツトムシ フタホシコヤガ コブノメカ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種前	1 回	育苗箱の床 土または覆 土に均一に 混和する。	1 回	3 回以内 (育苗箱への処 理は 1 回以内、 本田での散布 及び 無人航空機散布 は合計 2 回以 内)
			は種時 覆土前 ～ 移植当日		育苗箱の上 から均一に 散布する。		
		高密度には種する 場合は 1 kg/10 a(育 苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	は種前		育苗箱の床 土または覆 土に均一に 混和する。		
			は種時 覆土前 ～ 移植当日		育苗箱の上 から均一に 散布する。		

6. レシードアルファ箱粒剤

(クロラントラニプロール 0.75 %・フェンメゾジチアズ 1.0 %・ジクロベンチアゾ
クス 2.0 %粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤 の使 用回 数	使用 方法	クロラントラニ プロールを含む 農薬の総使 用回数	フェンメゾジチ アズを含む農 薬の総使用 回数	ジクロベンチア ゾクスを含む 農薬の総使 用回数
稲 (箱育苗)	ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネミズシロムシ イネトヨイムシ ニカメイチュウ イネツトムシ フタホシコヤガ コブノメカ いもち病 内穎褐変病 白葉枯病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種前	1 回	育苗箱の床 土または覆 土に均一に混 和する。	1 回	3 回以内(育 苗箱への処 理は 1 回以 内、本田で の散布 及び 無人航空機 散布は合計 2 回以内	3 回以内 (移植時ま での処理は 1 回以内、 本田での散 布は 2 回以 内)
			は種時 覆土前 ～ 移植当日		育苗箱の上 から均一に 散布する。			
		高密度には種する 場合は 1 kg/10 a (育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	は種時 覆土前 ～ 移植当日		育苗箱の上 から均一に 散布する。			

別添 2：暴露量の推計（フェンメゾジチアズを有効成分として含む製剤）

目次		頁
1. バキシオ箱粒剤 （フェンメゾジチアズ2.0%粒剤）		2
2. バレシオフロアブル （フェンメゾジチアズ18.2%水和剤）		3
3. デプリオフロアブル （フェンメゾジチアズ18.2%水和剤）		4
4. デプリオターフフロアブル （フェンメゾジチアズ18.2%水和剤）		5
5. アルファエース箱粒剤 （クロラントラニリプロール0.75%・フェンメゾジチアズ1.0%粒剤）		6
6. レシードアルファ箱粒剤 （クロラントラニリプロール0.75%・フェンメゾジチアズ1.0%・ ジクロベンチアゾクス2.0%粒剤）		7

＊：本資料は、製剤のハザード区分に応じた防護装備も考慮して作成した。

1. パキシオ箱粒剤（フェンメゾジチアズ2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	—
	種類・名称	フェンメゾジチアズ粒剤（パキシオ箱粒剤）
② 評価対象有効成分		フェンメゾジチアズ
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		0.064 (mg/kg体重)
④ 有効成分濃度・含有率		2 %
⑤ 製剤の形態（製剤/散布液）		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	稲（育苗箱）	50 g/箱／播種前／育苗箱の床土または覆土に均一に混和する。／3回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗箱）						5.3	9.1	20.3	14.1	
2	稲（育苗箱）	50 g/箱／播種時覆土前～移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／3回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗箱）						5.3	9.1	20.3	14.1	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)÷1000($\mu\text{g/mg}$)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)÷1000($\mu\text{g/mg}$)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

2. パレシオフロアブル（フェンメゾジチアズ18.2%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	—
	種類・名称	フェンメゾジチアズ水和剤（パレシオフロアブル）
② 評価対象有効成分		フェンメゾジチアズ
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		0.064 (mg/kg体重)
④ 有効成分濃度・含有率		18.2 %
⑤ 製剤の形態（製剤/散布液）		製剤: 液体／散布時: 液体
⑥ 調製時の予測式		フロアブル剤等

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	0.01
希釈液	32	0.84
	4200	0.84

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	稲	4200 倍, 150 L/10a／収穫7日前まで／散布／3 回	4200	液剤_水稻（手散布）						0.1	0.5	0.5	0.8	
1*	稲	4200 倍, 150 L/10a／収穫7日前まで／散布／3 回	4200	液剤_水稻（機械散布）						0	0.2	0.2	0.3	
2	稲	32 倍, 0.8 L/10a／収穫7日前まで／無人航空機による散布／3 回	32	液剤_無人航空機 (-)						0	0.1	0.1	0.1	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)÷1000($\mu\text{g/mg}$)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)÷1000($\mu\text{g/mg}$)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

3. デブリオフロアブル（フェンメゾジチアズ18.2%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	—
	種類・名称	フェンメゾジチアズ水和剤(デブリオフロアブル)
② 評価対象有効成分		フェンメゾジチアズ
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		0.064 (mg/kg体重)
④ 有効成分濃度・含有率		18.2 %
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)		製剤: 液体／散布時: 液体
⑥ 調製時の予測式		フロアブル剤等

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	0.01
希釈液	2000	0.84

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)			
1	きく	2000 倍, 300 L/10a／発生初期／散布／3 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						0.4	2.8	1.4	4.3	
1*	きく	2000 倍, 300 L/10a／発生初期／散布／3 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						0.1	0.5	0.3	0.7	

¹⁾: AOEL占有率=反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000($\mu\text{g/mg}$) $\div$ AOEL(mg/kg 体重/日) $\times$ 100

²⁾: AAOEL占有率=急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000($\mu\text{g/mg}$) $\div$ AAOEL(mg/kg 体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

4. デブリオターフフロアブル（フェンメゾジチアズ18.2%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	—
	種類・名称	フェンメゾジチアズ水和剤 (デブリオターフフロアブル)
② 評価対象有効成分	フェンメゾジチアズ	
③-1 AOEL	0.026 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.064 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	18.2 %	
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)	製剤: 液体／散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	フロアブル剤等	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	0.01
希釈液	1000	0.84

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	芝	1000 倍, 500 L/10a／発生初期／散布／3 回	1000	液剤_芝（手散布）						0.3	0.7	1.1	1.2	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)÷1000($\mu\text{g/mg}$)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)÷1000($\mu\text{g/mg}$)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

5. アルファエース箱粒剤（クロラントラニリプロール0.75%・フェンメソジチアズ1.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	—
	種類・名称	クラントラニリプロール・フェンメソジチアズ粒剤 (アルファエース箱粒剤)
② 評価対象有効成分	フェンメソジチアズ	
③-1 AOEL	0.026 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.064 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	1 %	
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)	製剤: 固体／散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤 (粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)			
1	稲（箱育苗）	50 g/箱／は種前／育苗箱の床土または覆土に均一に混和する。／3回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						2.6	4.5	10.2	7.1	
2	稲（箱育苗）	50 g/箱／は種時覆土前～移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／3回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						2.6	4.5	10.2	7.1	

¹⁾: AOEL占有率=反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000($\mu\text{g/mg}$) $\div$ AOEL(mg/kg 体重/日) $\times$ 100

²⁾: AAOEL占有率=急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000($\mu\text{g/mg}$) $\div$ AAOEL(mg/kg 体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

6. レシードアルファ箱粒剤（クロラントラニリプロール0.75%・フェンメゾジチアズ1.0%・ジクロベンチアゾクス2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	—
	種類・名称	クロラントラニリプロール・フェンメゾジチアズ・ジクロベンチアゾクス粒剤 (レシードアルファ箱粒剤)
② 評価対象有効成分	フェンメゾジチアズ	
③-1 AOEL	0.026 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.064 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	1 %	
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)	製剤: 固体／散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤 (粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	稲（箱育苗）	50 g/箱／は種前／育苗箱の床土または覆土に均一に混和する。／3回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						2.6	4.5	10.2	7.1	
2	稲（箱育苗）	50 g/箱／は種時覆土前～移植前／育苗箱の上から均一に散布する。／3回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						2.6	4.5	10.2	7.1	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。